

血管造影装置

血管造影とは

血管内にカテーテルという管を挿入し狭くなった血管を広げる血管拡張術や、腫瘍を栄養している血管の血流を止める血管塞栓術などの治療を行っています。当院では 2 台の血管造影装置が導入されています。

使用装置について

島津製作所製

Trinias B8 unity edition (95 血管造影室)



特徴

- X線発生器とX線を検出し画像化する検出器が二組（バイプレーン）あり、これにより一回の造影剤の注入で2方向の撮影が可能になり、シングルプレーンと比較すると造影剤の使用量を半分程度に抑えることができ、被験者の被爆を低減するとともに検査時間を短縮できます
- SCORE Chase：造影剤を追跡しながら撮影することで下肢全長画像を作成し、広範囲の血流状態を容易に把握できます。またその画像はテーブル位置、視野サイズに連動して現在の照射位置を表示するため被ばく低減、造影剤が低減できます。
- SCORE RSM：血管と骨のコントラストをより高くし、細かい血管まで鮮明に描出し、体動によるアーチファクトのない画像が得られます。
- SCORE StentView：治療の際に用いるステントを心臓の拍動に合わせてリアルタイムで固定して表示することで、ステント留置を安全かつ確実にこなせます。
- TraceMAP：DSA 画像を元に造影剤の注入された血管を抽出したものを透視画像に反映させることガイドワイヤーが血管内を通過している状況がわかりやすくなります。

Philips 製

Allura Clarity FD20 (94 血管造影室)

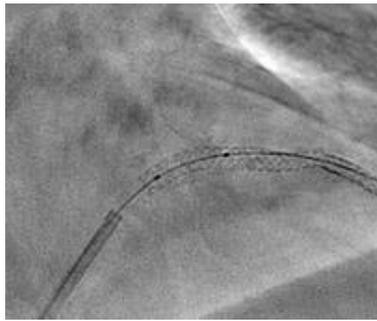


特徴

- ・ 大きなカメラを搭載し、広範囲に撮影することができます。主に腹部血管や頭部血管の診断・治療に使用しています。
- ・ CT のような断層画像を撮影することができるため、3D 画像を作成することができます。さらに 3D 画像上で腫瘍をマーキングすることで、腫瘍に栄養を運んでいる血管を特定し選択的に塞栓術や化学療法を行うことができるので、正常組織への負担を軽減した治療を行うことができます。



↑ SCORE chase



↑ SCORE Stent View



↑ TraceMAP